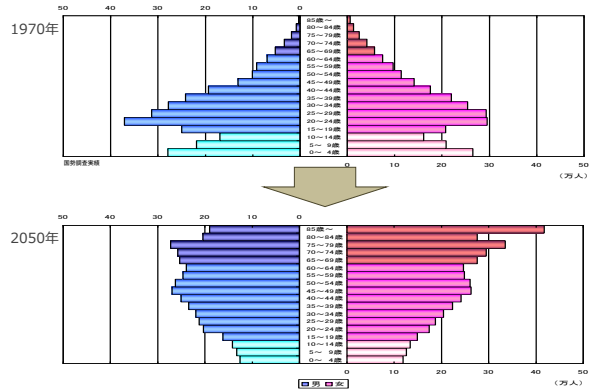


メディカル・イノベーションスクール(仮称)構想について

1 ヘルスケア・ニューフロンティアについて

県は超高齢社会を乗り越えることを目指し、「最先端医療・最新技術の追求」と「未病の改善」という2つのアプローチを融合し、健康寿命日本一と新たな市場・産業の創出を目指すヘルスケア・ニューフロンティアの取組みを推進している。

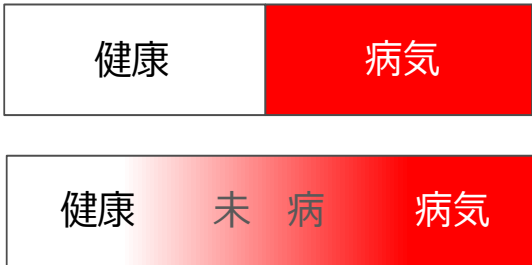
超高齢社会の到来



ヘルスケア・ニューフロンティアの推進



未病とは



未病 …健康と病気を2つの明確に分けられる概念として捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものと捉え、このすべての変化の過程を表す概念

2 メディカル・イノベーションスクール(仮称)について

ヘルスケア・ニューフロンティアを担う人材育成を目的として、神奈川県立保健福祉大学に新たに大学院研究科（メディカル・イノベーションスクール（仮称））の開設を目指す。

(1) 新設研究科の設置目的

超高齢社会を乗り越えるため、社会システムや技術の革新を起こすことができる人材養成を目指し、新たに公衆衛生学を中心に未病についても教育・研究する大学院研究科（メディカル・イノベーションスクール（仮称））を神奈川県立保健福祉大学に設置し、保健医療分野のイノベーション人材を育成する。

(2) 新設研究科の概要（予定）

- ア 開設する研究科・課程
神奈川県立保健福祉大学大学院 公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻（修士課程）
- イ 開設時期
平成 31 年度
- ウ 入学定員
10～15 名程度

(3) 今後の予定

平成 30 年 3 月	文部科学省に認可申請書を提出
8 月	認可 学生募集・選考試験実施
平成 31 年	研究科の開設

(4) 設置に向けた検討体制について

新設研究科に関する基本的な方針や教育内容について検討するため、県及び有識者からなる「メディカル・イノベーションスクール設置検討委員会」及び「メディカル・イノベーションスクール設置専門部会」を設置し、研究科における人材像や教育内容等について議論を行っている。

<主な議論内容>

a 養成人材像

高齢化や少子化による人口構造・社会システムの変化、個別化医療の進展等の現代社会の動向等を踏まえ、次世代社会を見据えてグローバルに活躍できる保健医療分野のイノベーション人材として、新研究科で養成する人材の進路として、

- ①ヘルスケア産業従事者
- ②健康医療政策担当者
- ③大学、研究機関、企業の研究者
- ④保険医療機関の経営層 等

を想定する。

b 教育内容

研究科の教育内容については、疫学や生物統計学など公衆衛生学領域の基本分野に加え、イノベーション創出に必要となる先端技術やビジネスに関する科目などを想定する。

c 教員体制

教育内容に基づく多彩な分野の教員、未病コンセプトに基づく新たな研究領域を担う教員の確保を図っていく。

d 設置場所

国内外から最先端の研究機関や企業、教育機関が進出している川崎市殿町地区において、より高度な教育を効率的に実現するため、研究機関や企業、大学との連携を図っていく。

<今後の予定>

有識者によるメディカル・イノベーションスクール設置検討委員会及び専門部会が出された意見を踏まえ、教育内容等、研究科の内容を決定するとともに、教員の確保を進め、平成30年3月に予定している国への認可申請につなげる。

(5) 設置に向けた広報事業について

メディカル・イノベーションスクールの学生募集や企業等との連携につなげることを目的として、広報関係イベントを開催する。

(実績)

- ・ キックオフ・シンポジウム開催 (H29. 2. 3)
新研究科開設に向けた一般県民対象のシンポジウムを開催。
- ・ 日本本医療政策機構主催特別朝食会における情報発信 (H29. 3. 2)
企業関係者（主にヘルスケア産業の経営者層）を対象とした情報発信。
- ・ イブニング・セミナー開催 (H29. 3. 16)
入学候補者を主な対象としたセミナーを夜に開催。
- ・ WHO&Kanagawa UHC リーダーシッププログラムにおける情報発信 (H29. 3. 27～31)

県と WHO とが連携して実施した人材育成事業における情報発信。

(予定)

- ・ プレ講座(模擬授業)実施 (H29. 9. 22～12. 15)
新研究科における教育研究内容を模擬授業形式で講義。
- ・ 入試説明会、オープンキャンパス等におけるイベントの実施 (H30)
内容については検討中。